

4月23日

殉教者ジョージ

Georgios

(?～303頃)

～イングランドの守護聖人～



「聖ゲオルギオスと

ドラゴン」

ラファエロ画

人名辞典などではゲオルギオスと表記されるこの人物は、ルネサンス美術などで取り上げられることも多く、また多くの団体や職業の守護聖人となるなど、とても有名である。しかし、その生涯については余り知られていない。

13世紀にヤコブス・デ・ウォラギネが「黄金伝説」の中で彼を取り上げ、その存在は多くの人に知られていくようになる。

さて、ジョージは280年ころ小アジアのカパドキアに生まれたとされる。母は敬虔なキリスト教徒で、その母から信仰深く育てられていった彼は、少年時代にローマ陸軍に志願する。彼の父も陸軍にいたが、ジョージは若くして手柄をあげ、皇帝の信用を受け将校にまでなる。

しかし、時の皇帝デオクレティアヌスはキリスト教に対する迫害を行っていた。ジョージはその皇帝に対し、「キリスト教は真の宗教です。あなたもその神のことを認めてください」と言い、牢獄に監禁されてしまう。将校として優秀であったジョージの才能を惜しむ皇帝は、何度も棄教するように説得をしたが、彼は「わたしの生命は神にささげたものです」と拒否し、303年、斬首される。

彼には悪竜退治の伝説が語り継がれており、このような内容になっている。

ある国に毒の息を吹きかけて人を殺す竜がいた。その竜は人々を次々と殺し、王は王女をいけにえにするという決断をせざるを得なかった。そのときにジョージが登場し、竜の餌食になりかけていた王女を救い、竜を倒したという。そしてその国の王も住民もみな、キリスト教に導かれていった。

ルネサンス美術作品でもしばしば、ジョージは白い馬にまたがり、赤い十字の旗を持ち、楯を持った姿で描かれる。そのジョージを、1189年から99年までイングランド王だったリチャード1世は自分の軍隊の守護聖人とする。また1222年に開かれたオックスフォード教会会議で、セント・ジョージをイングランドの守護聖人とするのが正式に決議される。

(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者ジョージに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン